

## アートギャラリー等施設利用促進事業

## 事業の感想やコメント

① 目標値、実績値ともに昨年度比同等（同時期）ということでここ数年の実績が安定していると考えられます。これもひとえに館長をはじめ職員皆様方の努力の賜物と思います。引き続き、実績の大半を占めるアートギャラリーの活用についてのご検討等をお願いいたします。

② 施設利用者の拡充に向けた広報活動を行うことによって目標値に近づくのではないかと思います。昨年度と今年度の取組で工夫を行った状況があれば教えていただければと思います。

## &lt;回答&gt;

施設の利用につきましては、利用団体数、利用日数ともコロナ禍以前の状況にもどりつつあるところですが、各団体の催し物の来場者数＝利用者数が伸び悩んでいるところです。当館では、WEBで市民アートギャラリーの予定表を公表しているほか、事前に申し出のあった団体の案内チラシ等を館内に配架する等周知につとめているところです。

③ 今年も目標値と実績値の乖離が大きく、実績値は目標値の2分の1程度であった。

④ 令和5年度、令和4年度とも目標値は60,000人としているが、どのような理由なのでしょう。目標値の見直しが必要なのではないか。

## &lt;回答&gt;

令和5年度までの目標値につきましては、コロナ禍以前の実績に基づいて目標値を定め、コロナ禍の状況に合わせた数値の修正は行っていません。

⑤ アートギャラリーの使用がコロナ前のように多くなっていると感じます。美術作品を制作する方が増えてうれしいです。

⑥ 開館から34年も経過している施設にも関わらず、いつ訪問してもアートギャラリーや玄関、ホールなど施設内が綺麗に保たれています。施設全体の印象を大きく左右するトイレについても清潔感があり、予算に制約のある中であっても、来館者に配慮した適切な施設の維持管理を行っていると感じました。

⑦ 実績値の多くが、市民ギャラリーの貸し出し先の集客力に負っていて、美術館のコントロールの及ばない数字であり、目標値の項目の設定について疑問が残る。稼働日数／率の方がより適切ではないか？

## &lt;回答&gt;

御意見を参考に今後の目標の設定について検討してまいります。

## 今後に期待すること

- ① 別件かとも思いますが、予定されている改修に関して現状でご提供頂ける情報についてお教えいただきたいです。

<回答>

別の議題で御説明いたします。

- ② 目標値に近づくための効果ある方策を期待します。

- ③ ミュージアムホールやアトリエの利用日数が増えれば、目標値に近づくのではないかと。

- ④ アートギャラリーの申込みが増えて重なった時、申込者どうしの話し合い（抽選だけでなく）ゆずりあい、美術館指導で申込者全員が予約をとれるようにする。

<回答>

施設利用の希望が重なった場合の対応につきましては、今後も公正な対応に努めてまいります。

- ⑤ 来館者を増やすには、広報ひらつかにアートギャラリー全部の催事を掲載する。見落としが少なくなると思う。

<回答>

広報ひらつかへの掲載につきましては、締切が後方発行日の約40日前となっており、利用直前にキャンセルされる方もいらっしゃることから、WEBでの周知とさせていただいています。

- ⑥ 来館者が見える範囲では、屋内は良好に保たれている一方で、屋外2階の彫刻広場は、老朽化が目立っていて、来訪者はほとんどいない状況です。施設屋外2階の継続的な管理が難しいのであれば、大規模改修を機に樹木と彫刻は別の場所に移設して定期的な管理が容易となる仕様とするなど、施設の屋外についても持続可能となるような管理方法の検討を期待します。

<回答>

開館後34年を経過し、施設の老朽化が進んでおり、利用される皆様に御不便をおかけしまして誠に恐縮です。現在、改修に向けた設計を実施しており、老朽化した部分の改修に努めてまいります。

- ⑦ 利用団体数、利用日数\*は十分に高い数字であると思う。現状維持に努めていただきたい。

- ⑧ 記載のミュージアムホールの利用日数は貸出しでの利用日数であり、それ以外の日程でも展覧会関連映像の上映などで活用されているという理解でよろしいでしょうか。

<回答>

御指摘のとおりです。

## 美術教育の普及・体験事業（ギャラリートークの実施）

### 事業の感想やコメント

- ① 昨年度以上に目標値を大きく上回る実績となり評価に値します。
  - ② 実施回数を増やしたことがその要因と考えられますが、実施において見直すべき問題点などはありましたでしょうか。またそれについての方策などもありましたらお示してください。
- <回答>
- ギャラリートークについては夏季のザ・キャビンカンパニー展において「絵本の読みがたり」や「アーティストトーク」などが人気であったことなどによって参加人数が増えました。想定以上の参加者がいましたが、職員や関係者の人員を充てられ問題点はありませんでした。
- ③ ザ・キャビンカンパニーの展示を拝見させていただいた際の参加者の人数と熱さには驚きました。
  - ④ 特に企画展「ザ・キャビンカンパニー大絵本美術展」では、作品展示のみでなくトークやサイン会など人が集まる企画を催していることが、功を奏したと感じる。
  - ⑤ キャビンカンパニー大絵本美術展の時、大勢の幼児連れの親子が来ているのにはびっくりしました。絵本は私の知らないキャラクターばかりでも子どもたちには人気のようで、時の流れを感じました。ゆっくり本を読んでみたかったのですが、手を触れてはいけなかったので残念でした。小さい時から美術館に来て、絵画や彫刻に触れるのは良いことです。
  - ⑥ 作家や学芸員から直接話を聞いて、創作の背景を知ることは美術を鑑賞する上での貴重な経験になると思います。参加者が前年度より約 1500 人も増えて目標値の3倍に達したことは、知名度の高い作家というだけでなく、開催する側であるアーティストや美術館職員それぞれが前向きに尽力した成果だと思っています。
  - ⑦ ザ・キャビンカンパニーのトークイベント等、多くの参加者を集めており、十分な成果が上がっていると思います。

## 今後に期待すること

- ① 今年度の実績を維持できることを期待しています。
- ② 親子で参加できるイベントの開催は子どもの可能性を伸ばすことと、将来にわたっての情操教育に寄与する面として重要であると思います。
- ③ ギャラリートークだけでなく、読み語りやおはなし会、対話による鑑賞会など魅力ある事業を今後も実施していくと良い。
- ④ 小さい時から美術館に来て、絵を描く人になってほしい。
- ⑤ 近年、AIを活用した「音声文字起こし」が急速に実用性を増しており、携帯の留守電の内容がリアルタイムで文章化され待ち受け画面に表示されるなど便利になっています。また、パソコンでも文書作成ソフトの書き起こし機能を使用して、実質無料で自動書き起こしができるようです。この機能を使って、開催したギャラリートークなどについて文章化し、ホームページに掲載すると、参加できなかった方も内容がわかり広報周知が進むと思います。

### <回答>

ギャラリートークは展示した作品を前にして説明をしていますので、文章のみを掲載した場合、読み手が内容を御理解いただけるかなどの課題があると考えます。AI等、進歩した情報技術は美術館の活動にとっても有効なものもあると捉えていますので、活用方法等研究してまいります。

- ⑥ 今年度と同様の成果を期待します。

## 美術教育の普及・体験事業（ワークショップの開催）

### 事業の感想やコメント

- ① 実績値が着実に増加していることは評価できます。
- ② 8月上旬に実施された新たな試みも大いに寄与していると評価できます。
- ③ 目標値を上回る参加があったことは事業内容の充実によるものと考えます。
- ④ 美術教育の普及に向け、御尽力いただきありがとうございます。小学校での活用も増え、各事業も良好だと思えます。
- ⑤ 市内小学生を対象とする「対話による美術鑑賞」は、学校現場で大変好評である。私も実際に学校現場で体験したことがあるが、学芸員の方々が子どもたちの小さなつぶやきを聞きのがさず、どんなつぶやきでもそれを「おもしろい。」と大変よくほめてくださる。そのため子どもたちも自分が感じたままを物怖じすることなく話すことができ、終わった後もみんな「楽しかった。」と感想を述べている。
- ⑥ 「対話による美術鑑賞」は学校に来ていただけるのが大変ありがたく、美術館から遠い小学校も美術作品に触れることができるのがよい。また、学校は校内の場所を提供できれば、あとは学芸員さんとひらびーさんがすべてやってくれるので、教員は大変助かる。
- ⑦ 美術館へ徒歩圏内の小学校は本物の美術作品で「対話による美術鑑賞」を受けられるのがとてもよい。
- ⑧ 体験学習が増えているようです。参加したことがないので、時間に余裕ができれば体験したいと思う。新しい世界が広がるかも。
- ⑨ ワークショップへの参加者数が昨年度に続き目標値を上回ったことは、ワークショップ数を昨年の20講座から32講座と大幅に増やすなど、企画や準備をした美術館職員の努力の賜物であり、今後もこの傾向が続くよう望みます。
- ⑩ 目標値を大きく上回る数字を達成しており、成果を上げていると思えます。

### <御意見全体に対する回答>

今年度は「美術館であそぼ」を実施したことにより、参加者数の伸びが見られます。その他のワークショップ、スクールプログラム、対話による美術鑑賞とも参加者数は安定的に推移しています。今後も各プログラムの内容を充実させ、多くの方々に美術館を利用していただくようつとめてまいります。



## 魅力ある美術展覧会事業

### 事業の感想やコメント

- ① 年間を通じた展覧会の企画・構成はバリエーションに富み、大変興味深く思います。
- ② 一市立美術館として内容と質を兼ね備えた展覧会を企画・実行して、この実績値を記録していることは十分に評価できると思います。関連事業や広報と併せて引き続きご検討をお願いいたします。
- ③ 個人的には夏の企画展はとても興味深いものでした。もっと集客があれば、と少し残念に思います。
- ④ 様々な展覧会事業は魅力的であり、生涯学習に寄与していると思います。目標値に届かないことは残念です。
- ⑤ 企画展、特集展、ロビー展それぞれで、なぜこのアーティストの作品展なのかとか、その作品が生まれたきっかけや時代背景等を聞くと、興味深くなり、「美術館へ行ってみたい。」や「作品を鑑賞してみたい。」「知人に紹介したい。」と思うことがあった。
- ⑥ 「落谷虹児展」は、ほぼ原画の展示であり光をあてられないということで開催日数も短めだった。年齢層が高い方が懐かしく感じるようだったが、若者にも人気があったようで好評だったようだ。
- ⑦ 他美術館とは違う作品の展覧会が多く、興味深く観覧しました。特に平野杏子さんは地元の方で、本人とも面識があり、若い時の作品もあり、なるほどと感じました。
- ⑧ ザ・キャビンカンパニーと落谷虹児の企画展は、ともに絵本や雑誌に描かれた日常の中に身近にある芸術を取り上げたものですが、童堂賛歌が観ている側も元気が出るような躍動感と生活感が溢れるのに対して、落谷虹児展は、どの絵にも清涼感と洗練を感じる作品群となっており、動と静の対照的な展覧会として興味深く鑑賞できました。
- ⑨ 今年度、展示室の休室期間が長いように思われるのですが、いかがでしょうか？ 実績値を目標値に近づけるには、展示室での展覧会開催日数を増やすのが、ひとつの方策かと思われます。

### <回答>

今年度はザ・キャビンカンパニー展が他館との日程調整が必要な巡回展だったこと、また、大がかりな設営期間が必要だったため、休室期間が長くなったものです。一方、今年度はロビー展として中勘助展、テーマホールでの絵本作家たてのひろし氏の公開制作を行うなど館内の有効活用に努めました。今後も充実度の高い展覧会構成に努めます。

## 今後に期待すること

- ① 近隣の他の文化施設と連携・連動したプロジェクトや企画などを実行して、地域ぐるみでの活性化を期待します。

### <回答>

博物館、図書館との3館コラボ事業や、東海大学と連携したワークショップ、夏季の展覧会にあわせて行った「ひらしん文化芸術ホール」などでの出張展示などの試みを通じて、より多くのかたにアピールできるよう、今後も務めて参ります。

- ② もしかしたら、美術館への敷居が高いと感じている方もいるのかな？と思います。開かれた美術館、作品を見ることにより、「生きる力」が沸き立つような工夫ができればと思います。

- ③ 各々の新聞による広報も見ております。より一層の広報と作品を鑑賞する機会の充実を願います。

- ④ 幅広い年代の方やそれまで絵画等美術品にあまり興味がなかった方が興味を持つきっかけとなるために、宣伝方法について、ポスターでの宣伝だけではなく。大型モニターを利用した簡単な宣伝を加えてみたらどうか。例えば、平塚駅の改札外（待ち合わせの人が多いので）や市役所1階の入り口や待合場所等で大型モニターを利用した企画展等の宣伝を配信してはどうか。

### <回答>

展覧会等の事業につきましては、市のメディアである「広報ひらつか」、市及び当館ウェブやSNS（当館公式 Twitter、公式 YouTube チャンネル等）、美術関係者へのメール配信、ポスター・チラシ等の配布（市内公共施設、各学校、美術関係者、新聞社、TV、ラジオ等の各メディア、神奈川中央交通バス等）を通じ、PR・周知に努めています。いただいた御意見も踏まえ、今後もより効果的な周知ができるよう努めてまいります。

- ⑤ ザ・キャビンカンパニーの展覧会では、保育園児向け展覧会鑑賞ツアーを2回開催していて、事前に出張授業を行うなど、職員の手間や負担がかかる事業と推察します。しかしながら、幼児期に本格的な芸術に触れる原体験は、美術館に親しみを持ち来館するきっかけづくりにも繋がるため、保育園、幼稚園の未就学児童が美術館での基本的マナーやルールを学びながら鑑賞できる機会を継続してもらいたいと思います。

- ⑥ 展覧会事業は開催までの初期投資があり、人件費、光熱費を度外視すれば、その後開催日数が多いほど来館者数、観覧券収益が上がるので、予算措置を含めて展示室での開催日数を増やす方向で検討できないものでしょうか？

### <回答>

展示室の休室中にはワックスがけ等のメンテナンスを行っており、一定の休室期間は必要なものと考えています。今後も効率的な展示室の利用に努めてまいります。

## 美術品の調査・収集事業

### 事業の感想やコメント

- ① 引き続きの活動をお願いします。
- ② 良好な保存環境の整備に努めていただければと思います。
- ③ 美術品の調査・収集事業については特記事項を読んでここで初めて知ることが多かったため、特に意見はありません。
- ④ 収蔵品の保存や修復に関する講座はあるのでしょうか、もしなければそれを設けてもよいと思った。

#### <回答>

春季の特集展において開催する「よみがえる絵画」展は収蔵作品の保存修復をテーマとした展覧会で、ワークショップやギャラリートークを行う予定です。

- ⑤ WEBでいろいろな事ができて便利ですが、やはり本物が一番です。パソコン、スマホは年齢的に無理がありますし、本物には敵いません。

#### <回答>

美術館の所蔵作品のデジタルアーカイブ化は博物館法で定めや、本市のデジタル化基本計画に基づき進めているものですが、御指摘のとおり本物の良さを感じ取っていただくには御来館いただくことが肝要と考えています。デジタルアーカイブ化が来館者の呼び水となるよう、今後も進めてまいります。

- ⑥ 令和6年度の寄贈件数は令和5年度比較で約2倍以上の22点を受け入れ、寄託と併せて昨年度以上に多数の作品が収蔵できました。収集した作品は、令和7年度の秋の展覧会で展示するとのことで、今後、鑑賞機会の充実が図られることと思います。

- ⑦ 事業名の「美術品の調査・収集事業」の内、調査はどのように評価されていますか？

#### <回答>

美術品の調査・収集事業につきましては、現在、所蔵作品のデジタル画像公開件数を評価指標としており、調査に関しての指標は設定していません。今年度、調査・研究活動を公に資するために紀要第1号を発刊いたしました。今後も紀要を通じて成果を公表していくほか、来年度は「特集展 よみがえる絵画 修復された川村清雄、藤田嗣治、鳥海青児…」の開催を通じて日頃の調査活動の一つの成果を御覧いただけるものと考えています。

- ⑧ ここでいう「調査」とは、一般的な調査研究のことなのか、それ度も作品収集に関わる調査に限定されているのか、どちらでしょうか？

#### <回答>

博物館法に定められている「博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。」に該当する事業を指しています。

## 今後に期待すること

- ① 別の項目と関連する内容かと思いますが、収蔵品の保存や修復にフォーカスした企画や展示、講座などを行うのも良いのではないのでしょうか。

<回答>

令和7年4月12日から開催の「よみがえる絵画」展で収蔵作品の保存修復をテーマにした展覧会を行う予定です。

- ② 地域に根差した作者の作品等の調査・収集活動を期待します。

<回答>

湘南地域には調査すべき多くの作家がまだ埋もれており、こうした市民の財産について引き続き調査、収集をすすめていきます。

- ③ 学芸員の方には今後も引き続き美術品の調査等幅広く行っていただき、良い作品に接する機会を設けていただきたい。また、市民や美術館来場者が素敵な作品に出会うことができるよう、調査・収集等行っていただきたい。

<回答>

多くの皆様に、より良い作品を御覧いただけるよう、今後も調査研究に努めてまいります。

- ④ 美術品の収集活動は財政的なことも含め、状況が厳しくなっていくことが想定されます。今後もレベルの高い展覧会を開催するためには、公立や民間の美術館との連携が、ますます大切になってくるのではないのでしょうか。このため、他の美術館と交流する機会を平塚市美術館が自ら積極的に企画し、所蔵品の充実だけでなく、人的交流の充実も図っていただけたらと思います。

<回答>

収集活動につきましては、御指摘のほか、収蔵スペースが限られているなど大変厳しい状況です。当館では、これまでも他の多くの美術館等と交流・連携しながら事業を進めてまいりました。今後も積極的に交流・連携してまいります。

- ⑤ 博物館法では、「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関」とされています。その「これらの資料に関する調査研究」について、独立した評価項目があると良いと思います。

<回答>

調査につきましては、事業の感想やコメントの⑦で回答しましたとおりです。この活動に関する評価指標の設定につきましては、今後も研究してまいります。